

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1591100019		
法人名	社会福祉法人 人と緑の大地		
事業所名	グループホーム すずらの園		
所在地	新潟県見附市田井町115番地1 (電話) 0258-61-3520		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	3月11日

【情報提供票より】(20 年 2 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人、非常勤2人、常勤換算	16.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階 建ての	1 階 ~	2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (20 年 2 月現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	見附市立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすずらの園は、見附市の南側、長岡市との境界に位置する場所にある。周囲は田園風景が広がるのどかな場所である。同一法人が運営する特別養護老人ホームやケアハウスが併設している。平成19年4月に開設したホームの建物は鉄筋2階建てで、それぞれの階に1つずつのユニットがある。利用者全員が市内からの入居であり、また、ホームの所在する周辺地域から入居している利用者もあり、地域とのつながりを断ち切らない生活が継続出来ている。今後はさらに、地域の人々にグループホームは特別の施設ではないということ、認知症ケアの理解を広げる拠点となることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めてのサービス評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価したことにより、地域密着型のサービスで求められていることが理解できた。また、日々の業務で意識していなかったことがこの評価項目でわかり、地域に対する積極的な働きかけが大切であると認識するなど、職員の意識が大きく変わった。そして新年度の計画に活かすことができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームの役割や地域密着型サービスの意義の説明、事業内容や利用者の生活の様子の報告を行ない、会議を通して認知症ケアへの理解を深めてもらっている。また、意見交換を積極的に行ない、会議の構成員である町内会長、老人会長、民生委員、小学校長、保育園長、地域包括支援センターからでた意見をサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	昨年末よりホームの「たより」を発行して、ホームの様子を知らせている。利用者の日々の様子や健康状態・金銭管理については、ほぼ全ての家族に対して月1回は面会時に報告している。管理者及び職員は、家族等の面会時や家族会での集まりには、意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、出された意見等を検討し運営に反映させる仕組みがある。急を要する案件はそのつどミーティングを開催して対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが企画する行事に、保育園・小学校・老人会等の地域の団体からの参加があったり、地域が主催する高齢者の集まり「シルバーだんらん」や敬老会に利用者が参加している。また、日頃散歩等の機会にはあいさつを自然に交わすなど、地域との交流に努めている。年2回、地域住民の参加による避難訓練も実施している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権を尊重し、その人らしい生活をサポート」「あたたかい笑顔とやさしさのある場」「寄り添って安心できる毎日」など、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼時やショートミーティング、カンファレンスやユニット会議、2、3か月に1回のホーム会議などの場で理念を共有し、サービス提供について検討している。また、管理者は理念が日々のサービスに反映されるよう意識し、職員に働きかけている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族には、面会時や行事などを通して、また、地域の人々には、隣接する同法人施設の夏祭りや文化祭などの機会や広報誌を通じて、ホームの取り組みを紹介し、理解を深めるよう働きかけている。		開設して1年目という状況で、法人・ホームでは、地域性も踏まえてできることから取り組んできた。今後も、より積極的に運営推進会議を活用したり、より日常的な暮らしや付き合いの中で認知症への理解やホームの役割を伝えていくなど、さらなる取り組みをお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域が主催する高齢者の集まり「シルバーだんらん」や敬老会に利用者が参加している。また、日頃散歩等の機会にはあいさつを自然に交わすなど、交流に努めている。		法人主導ではなく、運営推進会議や町内の回覧板などを活用して地域活動の情報収集をし、ホームから積極的に地域の寄り合いや行事への参加することで、より地域とのつきあいが深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価したことにより、地域密着型のサービスで求められていることが理解できた。また、日々の業務で意識していなかったことがこの評価項目でわかり、地域に対しての積極的な働きかけが大切であると認識するなど、職員の意識が大きく変わった。そして新年度の計画に活かすことができた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの役割や地域密着型サービスの意義の説明をしたり、事業内容の報告をし、認知症ケアへの理解を深めてもらっている。また、参加メンバーからの意見をサービス向上に活かしている。		開設してから運営推進会議は2回開催している。今後は定期的に2ヶ月に1回の開催を行うことにより、会議をサービス向上にさらに活かしていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の担当者とスムーズに連絡や連携を図っている。市の担当者とは、一人暮らしの利用申請者について連携をとったり、利用後の報告を行なうなど密にやりとりをしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設前の研修や、今年度の法人内での研修、ホーム内での研修で、虐待関連法についての学習を積んでいる。職員は虐待を具体的にイメージに認識し、虐待がないように業務にあたっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年末よりホームの「たより」を発行して、家族にホームの様子を知らせている。利用者の日々の様子や健康状態・金銭管理については、月1回は面会時に口頭で報告している。		口頭での報告とともに、「たより」に担当職員から個別に生活の様子を記載し報告する機会を持つなどして、よりホームと家族等とが情報共有し、関わりを深めていくことを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は、家族等の面会時や家族会での集まりには、意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、出された意見等を検討し運営に反映させる仕組みがある。急を要する案件はそのつどミーティングを開催して対応している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等の場で、職員の意見や要望を出す機会があり、事業運営に反映されている。また、管理者は職員一人ひとりからも話を聞くなどし、意見が出やすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してからから1名の離職があったが、利用者きちんと説明したため、利用者には大きな影響は見受けられなかった。異動や離職の際には、新職員が事前に利用者との顔合わせをするとともに、ケアが途切れることのないよう職員間の引き継ぎや情報伝達を行なっている。ホームとして、頻繁な異動がないように法人に要望もしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	各種のマニュアルが整備され、法人内研修の機会に周知している。また、必要に応じて随時内容の変更・追加がされている。		現在のマニュアルは法人内の特別養護老人ホームを中心としたものであるため、グループホーム独自のものを作成中である。ホームの現状にあったマニュアルにより、より一層サービスの向上に活用することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回は法人内の研修会が開催され、職員はできる限り参加している。施設外研修には年間計画に基づき職員が参加している。職員自身が参加したい研修があれば法人で費用を負担するなどして、管理者や職員の資質を高める努力をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県のグループホーム協議会に参加し、機会があれば参加している。また、管理者は近隣の事業所と連絡を取り合っている。		現在、近隣地域の同業者との交流の機会を持つと検討中であるので、実現が期待される。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場でのストレス対策についての研修会や、ストレス改善を目的とした委員会を立ち上げるなど、法人で対策に取り組んでいる。また、運営者は年度内に1回、管理者や職員との面接を行ない、意見を直接聞くように努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在の利用者は、開設時から入居している方々である。ホーム入居にあたっては、事前に見学をしてもらったり、利用当初はできるかぎり家族に頻繁に来てもらうよう協力をお願いした。開設時の入居受け入れは、生活の雰囲気を徐々に作っていきけるよう配慮して、急に大勢の利用者を受け入れるのではなく、3ヶ月間かけてゆっくりと行った。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしい生活のサポート」「寄り添って安心できる毎日」という理念のもと、職員は意識して共に過ごしあえる場面作りや雰囲気作りに取り組んでいる。利用者から調理の味付けや段取りを学んだり、植物の名前を覚えてもらう機会を作るなど工夫をしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	開設から1年未満であるが、面会時の関わりや家族会等積極的な働きかけを通じて、家族と職員との関係は深まってきている。職員が利用者への支援方法で悩んでいることを家族に相談すると、家族からアドバイスや励ましの言葉を頂くなど、一緒に支えていこうという関係が築かれてきている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いをどう捉えるか、管理者と職員は日常業務の中でよく話し合っている。利用者のつぶやきから把握できる思いや意向を記録して、サービス計画に活かし、職員間で共有している。また、積極的に家族とコミュニケーションをとり、利用者の思いを把握しようと取り組んでいる。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の事前面接の機会や、利用後も、以前の暮らしや生活歴を把握することに努めている。		職員それぞれは利用者の情報を収集し、把握しているが、それが記録に整理されていない。一人ひとりの記録を完成させるなどし、職員間でしっかり情報を共有できるようにする仕組みづくりを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に対して、家族が「事業所におまかせ」にならないように、一緒に作成していくという姿勢を示して取り組んでいる。介護計画は、職員全員で話し合って方向性を出し、家族とも話し合って作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に3ヶ月ごとに行なうほか、利用者の状態が変化したときは随時行なっている。家族に対して、大きな課題を検討してもらうのではなく、課題を小さく具体的に（たとえばどうしたら入浴してもらえるか）話し合う工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診の支援や早期退院に向けての取り組み、ひ孫の発表会や運動会の見学支援、墓参り等個別の外出支援など、柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが、ホーム入居前からのかかりつけ医への受診を継続している。往診にきてくれる診療所もあり、適切な医療が提供されている。医療機関との連携・情報共有が図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は法人の看護職員と連携するなどして看取りの対応を準備している。 入居前の説明時には、終末期の対応についての指針を本人・家族に説明している。重度化したときは、「指針」に沿って家族を含めて話し合いをし、「重度化意思確認書」を使用して家族の意向や考えを確認し、状況や希望に合わせて対応する仕組みがある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、開設前の職員研修や法人内研修に参加し、個人情報保護法の理解に努め、利用者の尊厳を大切に接している。利用者に関する記録は利用者の近くで書かず、事務室で書くように努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその日課はあるが、職員の都合を優先することはない。利用者一人ひとりその日の状態を把握し、その人らしさが出るような生活を考えて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は法人の管理栄養士が作成するが、時に利用者と職員で献立をアレンジすることもある。調理や盛り付け、食事、片づけと、利用者と職員が共に行い、楽しく食事の時間を共有している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。実際に、オムツを使用していたが、適切な排泄支援により尿意を取り戻し、オムツを使わないですむようになった利用者もおられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏季は毎日入浴、冬季は1日おきに入浴している。希望があれば冬季も毎日入浴可能である。入浴は午後から夕方まで時間をとり、利用者一人ひとりの入浴時間の希望に少しでも対応できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に、食事づくり、雪かき、清掃等、有用感のある役割をお願いしている。職員は、利用者に感謝の言葉をかけるとともに、利用者が力を発揮できそうな役割を常に考えながら働きかけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から、散歩や個別の外出支援を意識的に実施している。買い物には利用者が以前に使っていたお店を利用したり、地域の人が集まる場に参加するなど、これまでの地域とのつながりを継続できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する法人内研修に参加し、共有認識を図っている。また、職員は無意識に身体拘束をすることがないよう、職員一人ひとりが意識し、おたがい確認し合っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。外に出たいという雰囲気のある利用者には、引き留めるのではなく業務の段取りを組み直し、職員が付き添って外出している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやりはっ」と「事故」ともに報告し、法人の事故対策委員会からのアドバイスを受けて、事故防止策の検討を行っている。また、事故については全て家族へ報告をしている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人の看護師や消防署から、心肺蘇生術や救急手当の研修を受け、職員は急変時に対する備えを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	中越大震災、中越沖地震の2度の震災経験を生かし、緊急時の対策を構築して法人のマニュアルを作成している。年2回のホームの避難訓練は、地域住民にも参加してもらい実施している。		ホーム独自の具体的なマニュアルも作成し、災害時の対策の向上についてさらなる取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者の食事や水分の摂取状況を把握している。食事量の少ない利用者については職員間で申し送り、食事量が足りているか確認し、場合によっては食事内容の工夫をして食事量の確保に努めている。食事形態は、その人に応じた内容をできる限り提供し、食事量の確保に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は広くゆったりとしており、食堂以外にも、畳コーナーがあったり、廊下に椅子やテーブルを置き、利用者が自由に選べる複数の居場所を確保している。南側には大きな窓があり採光もよく、そこから見える田園風景が季節を感じさせてくれる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前自宅で使っていた家具や大切な道具を自由に持ってきてもらっている。居室の入り口には、それぞれがのれんを掛けているが、一律ではなく一人ひとり好みのものが掛けられている。</p>		